

樹脂窓にかえると、暮らしが変わる。

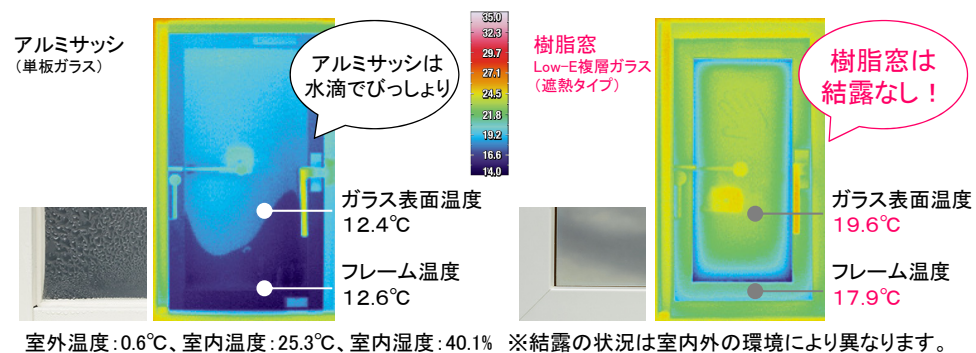
1 結露を減らせる

樹脂窓は結露知らず

結露する窓にはカビやダニも出やすく、健康をおびやかす原因に。

同じ寒さ、同じ湿度でも結露の差は一目瞭然。

窓の結露の原因は、冷くなった窓が室内の空気中の水蒸気を冷やして水滴を発生させるため。冬でも冷えにくい樹脂窓なら、フレームにもガラスにもほとんど結露が見られません。



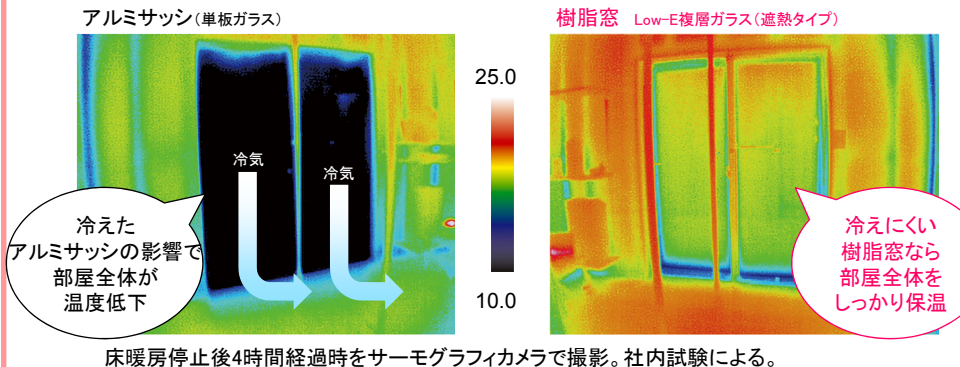
2 冬暖かく過ごせる

窓がかわると部屋全体が暖くなる

暖房を入れてもどことなくヒエヒエ。窓から冷気が忍びよる…

サーモグラフィで見る冬の室温、窓の違いで差は歴然。

断熱性の低い窓は外の寒さの影響を受けやすく、窓辺から床にかけて冷えゾーンをつくり出してしまいます。熱を伝えにくい樹脂窓なら、外が寒くても室内側は冷たくなりくいいため、部屋全体が暖かく保たれます。

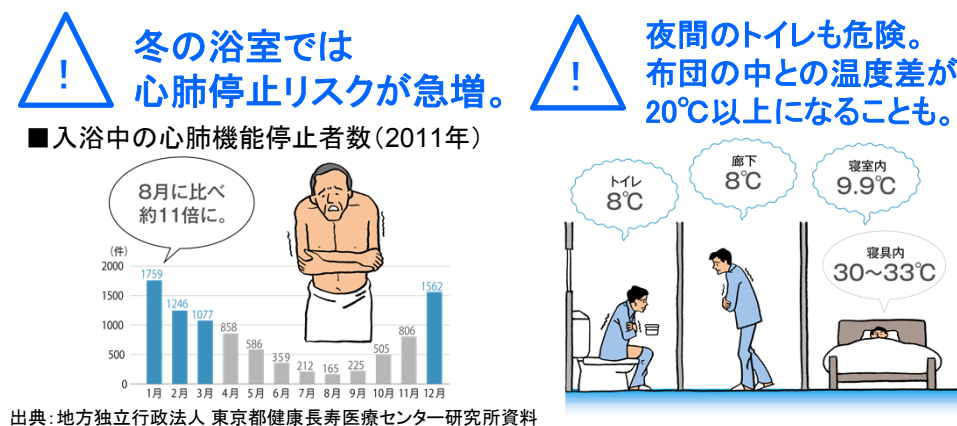


3 心肺停止の危険を防げる

樹脂窓でヒートショックの危険は抑えられる

ホカホカの居室とヒエヒエの浴室やトイレ、この落差に血圧は急変動。

急激な温度変化によって起こる血圧や脈拍の変動はヒートショックと呼ばれ、浴室における年間死亡者数は交通事故死亡者数の約2.4倍にもなります。居室との温度差を解消することで、浴室での事故を未然に抑制することができます。

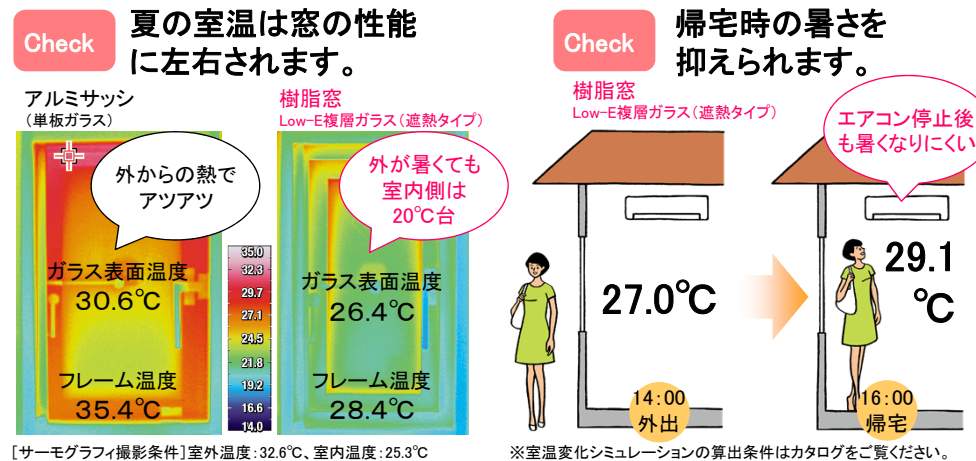


4 夏涼しく過ごせる

樹脂窓なら冷房を切った後も快適が続く

冷房しても汗じっとり、そんな暑さも、きっと窓のせい。

夏、帰宅した時に家の中が暑いのは、日中、屋外の熱が窓から家の中に入り込んでいるため。熱の侵入を抑えることで、室温の上昇を抑えることができます。



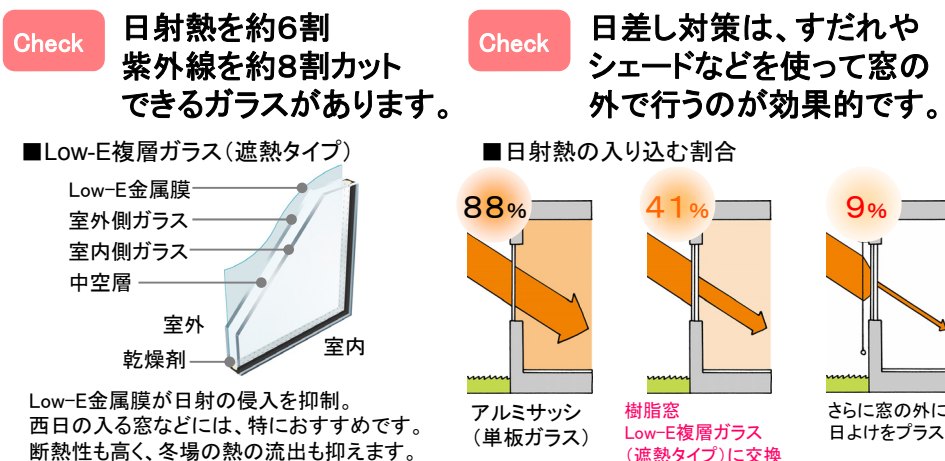
5 熱中症の危険を防げる

過酷な暑さには、樹脂窓と日よけ対策

熱中症は、住宅内での発生が約4割※。断熱性が低く、暑い家にご注意を。

※国立環境研究所 熱中症患者速報ホームページ(2016)より

熱中症発生場所の第1位は住宅内。熱の流入を抑えることで、熱中症を予防することができます。

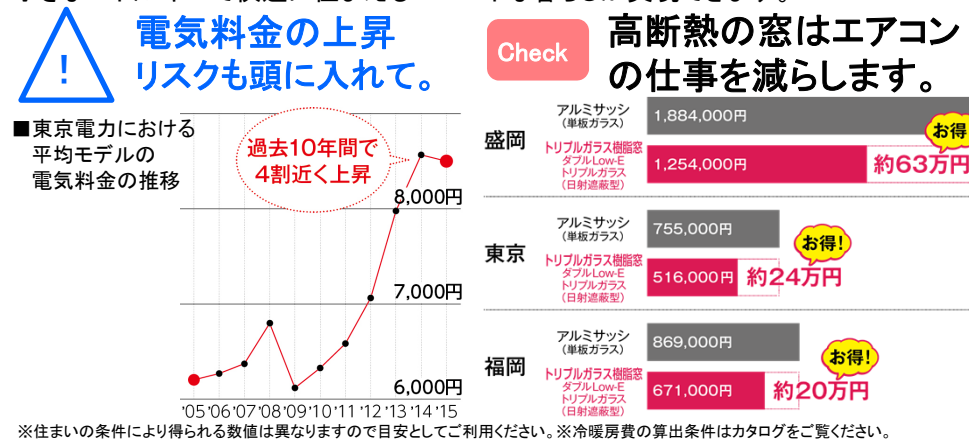


6 ローエネな暮らしができる

樹脂窓にかえると、光熱費も無理なく節約できる。

じわじわと上がっていく電気代…そろそろ家の「燃費」も見直して。

断熱性が低い家は冷暖房の効きが悪く、光熱費もムダにかかっています。冷暖房の使用をがまんして節電するのではなく、効率をアップさせることで、小さなエネルギーで快適に住まえるローエネ暮らしが実現できます。



商品の色は、印刷の特性上、実物と多少異なる場合がありますのでご了承ください。